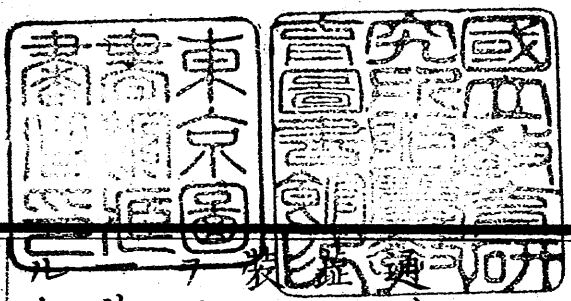


博物學
植物篇
天野駁著
下

東京圖書館	
大日本教育會館	
第三室	
函架號	二册 四四咽

K



博物學植物篇卷下

第七章 花ノ論

天野 絞 著

例ノ花ハ四部ノ機關ヨリ成ル即チ萼、花冠、雄
蕊及ヒ雌蕊ナリ萼ト花冠ハ其用稀ニシテ却テ
裝飾ニ屬ス故ニ植物ニ於テハ只雄蕊ト雌蕊ト
ヲ以テ緊要ナル部分トス通例ハ雄蕊雌蕊共ニ
花ニ生スレ氏玉蜀黍ノ如キハ一方ニ雄蕊ア
ル片ハ別ニ他ニ雌蕊アリ決シテ雄雌同蕊ニ集

植物學部藏書

ラス斯クノ如キ類ハ多ク森林ノ諸樹ニアリ即
チ榎楊柳秦皮栗等ナリ

萼ハ花ノ最外部ニアル處ノモノナリ一片或ハ

花ノ諸部



林檎氏ノ第八編八雄蕊ノ
第一目一雌蕊ノ部ニ屬ス

後ハ花ヲ維持シ終ニ果殻トナルアリ柿梅ノ如シ
シ或ハ菓蒂トナルアリ柿梅ノ如シ

數片ヨリシテ成ル之ヲ萼
片ト稱ス萼片ハ多ク綠色
ナリ而シテ花ノ最底部ヲ
占ム其用ハ花ノ開カサル
トキハ外部ヲ包ミ花開ク

花冠ハ通例花瓣ト稱スル處ノモノ、一片或ハ
數片ヨリシテ成ル之ヲ総稱スレハ即チ花ナリ
其狀萼ト同シカラス花瓣ハ稀ニ綠色ナルモノ
アリ然レ氏多クハ甚タ艷麗ナル各種ノ色ヲ保
ツモノナリ即チ之ヲ花ノ色ト云フ

花ノ色ハ皆太陽ノ光線ノ反射スル處ノ作用ニ
ヨリテ生スルナリ日光ノ色ハ其源三色ナリ其
七色アルハ其三色ノ限界ノ中間合シテ間色ヲ
生シ合セテ七色トナル此ノ七色ヲ合スレハ白
色ヲ呈ス是レ七色盤ヲ快旋シテ見ル處ノ如シ

花モ此ノ理ニヨリ七色ヲ全ク反射シ盡セルモノガ即チ白色トナレルナリ

花ノ色ハ此ノ光線ヲ瓣中ノ細胞ニ含メル液中ニ受クルナリ日光ノ三色各其一胞ニ映シ各胞各色トナリ各其分量ニ應シテ反射スルヲ以テ種々ノ色ヲ生スルナリ

又各胞共ニ一色ヲ受クレハ正色トナリ或ハ純紅純黃トナルモ斯カル類ハ甚稀ナリ故ニ譬ヘハ菊ニ純赤ト純黃トアルハ同シク一色ヲ受ケタルニシテ白ハ七色共ニ受ケ樺紅色等ハ其混

合ノ分量ニヨリテ生スルナリ故ニ花ハ光線ノ理ヲ考ヘ人エヲ以テ其色ヲ種々ニ變スルヲ得ヘシ

此ノ混合ノ理ハ小學色ノ圖ヲ見テ知り得ヘシ

花瓣ハ之ヲ單瓣多瓣ノ二種ニ分カツ單瓣トハ其花片ノ單ナルヲ云フ多瓣トハ花片ノ複雜集合シタルヲ云フ花ハ又其形狀ニヨリ各種ニ區分シテ各其名ヲ異ニス又之ヲ單花複花ニ分ツ馬鈴薯是ナリ或ハ鐘ノ如キアリツリガ子サウ是ナリ或ハ紫蘿猫菜ノ如キハ其形動物ノ唇ニ似タルヲ以テ之ヲ唇形花ト稱ス管狀ナルアリ

單花卜 八卽子一蒂二一花ヲ結

二記スルカ如シ

第一輻狀ト稱ス梅梨等、如ク

恰毛車ノ輻ノ形ヲナスモノ

フ云フ

第二 盆狀ト云フ形千金ノ如

ク花ヲ開クモノニシテ卽チ

紫茉莉等是十リ

ドニトマリタル狀ノ如キヲ云フ豌豆等ナリ

ナセルモノニシテ葉大根ノ花是ナリ

ク先キノ開キタルヲ云フ烟草等ナリ

反リタルモノニテ百合車前葉山慈姑等是ナリ

二テ石竹瞿麥等是ナリ

複花の部



第八ヲ唇形ト云フ其形唇ノ如ク紫蘇等ナリ

複花トハ圖ニモ示セル如ク花

辨複雜重疊シテ一蒂或ハ一莖ニ數花ヲ結ビ或ハ複雑ナルモノヲ云フ

第一總狀花トハ其花ノ形集合

シテ総ノ如ク毎ル、ヲ云フ
藤ノ如キ是ナリ

第二複傘花トハ小花莖端ニ集
合シ之ヲ見ルトキハ其形傘

ヲ張りタル如キモノヲ云フ

第三傘房花トハ其花ノ傘房ノ如クナルモノニ
シテ烏薔^{ヤブカラシ}莓ノ如キモノフ云フ

第四穗狀花トハ車前草オホバコノ如ク其花ノ狀恰モ麥
ナドノ穗ノ如キモノヲ云フ

第五葉 第花トハ短冊ヲ並ヘタル如クシテ榛ノ如キモノヲ云フ

第六集傘トハ傘ヲ集メタル如キ形ニシテ繡線シモツク

第七傘形花トハ傘ヲ開キタル如クシテ莖ノ長

キ端ニ花ヲ開クモノニシテ櫻等はナリ
第八小頭ト云フ長キ莖ノ端ニ集合複雑シタル
花ヲ開ク蒲公英^{タンポポ}ノ如キヲ云フ
雄蕊ハ花瓣内ニアル處ノ一部ナリ雄蕊ハ藥及
ヒ花絲ノ二部ヨリ成ル藥ハ雄蕊ノ頭部ニアリ
藥ヲ上ニ支フルモノヲ花絲ト云フル^{上圖ヲ見}藥
ハ黃色ナリ是レ黃粉ヲ被フヲ以テナリ此ノ粉
ヲ花粉ト云フ此ノ粉末ノ雌蕊ニ落ツルヲ以テ
實ヲ結フナリ即チ花ノ精ト云フヘシ故ニ雄蕊
雌蕊ノ別株ニ生スル植物ニ於テハ互ニ近ク植

ヘサルトキハ實ヲ結フヲ稀ナリ近ク之ヲ置ク
トキハ之ニ反シ此ノ花粉ヲ風或ハ蜂等ノ媒
ニヨリテ雌株ニ遞輸スルヲ以テ實ヲ結フコト
多シ花未媒助法ハ此ノ理ニ基ツケルモノナリ
雌蕊ハ花ノ中央ニ位ス雄蕊及ヒ花冠其外ヲ繞
ル柱、子房及ヒ柱頭ノ三部ヨリ成ル子房ハ最下
部ニアリ子房ヨリ上昇スルモノヲ柱トシ柱ノ
上端ヲ柱頭トス子房ハ實ノ發育スル處ニシテ
房皮之ヲ包ム又柱頭ハ藥ヨリ送ル處ノ花粉ヲ
受ケ柱管ヲ經過シテ子房内ニ通シ實ヲ結フ^{上圖}

ヲ見雄蕊雌蕊共ニ其數ハ種類ニヨリ同シカラ
ス

蕊ハ相分カル、モノアリ梅梨薔薇等ノ如ク
又圓筒狀ニ相集リ單體ヲナスモノアリ茶山茶
等ノ如シ之ヲ單體雄蕊ト稱ス又二部ニ分ル、
モノアリ之ヲ兩體雄蕊ト稱ス豌豆ノ如シ又數
絲集リテ一葉ノ如ク而シテ數體ニ分ル、モノ
アリ之ヲ多體雄蕊ト稱ス金絲梅ニ於ケルカ如
シ

花ニ香アルハ亦瓣ニヨル其原因未タ分明ナラ

ス凡ソ色ノ美ナルハ其香モ亦美ナリ素馨薔薇
ノ如ク色ノ美ナラサルモノハ其香モ美ナラス
衆等ノ如シ而シテ同種ニシテ香アルアリ香ナ
キアリ香ノ有無ハ色ノ如何ニヨル亦奇ト云フ
ベシ香モ亦日光ニ關スルモノニシテ赤道近傍
ニハ香氣アル花類多ク北地ニ至ルニ從ヒ佳香
アル草木類少ナシ又花ノ晝ハ香氣アリテ夜ハ
香氣薄クナレルアリ是レ香ハ日光ニヨルノ證
ナリ然レ氏原因ハ詳ナラス
花ノ開クハ必ス一定ノ時候ト一定ノ時刻トア

リテ誤ラサルモノナリ尤モ人ノ知ル處ノモノ
ハ蓮朝顔夕顔月見草等ナリ蓮朝顔ハ早朝太陽
ノ應サニ昇ラムトスルモ花ヲ開キ夕顔月見
草ハ晩間ヨリ花ヲ開ク草木ノ内多クハ朝ヲ開
花ノ定候トス之ヲ證セント欲セハ夏日早天ニ
園中ノ朝顔ヲ見ルヘシ故ニ花ヲ以テ曆ト時機
トニアツヘシ

葉ト花瓣トハ素ヨリ同性ノモノニシテ瓣ト雄
蕊トモ亦同性ナリ故ニ瓣ノ化シテ葉ノ形ヲナ
シ而シテ雌雄蕊アリテ全形ハ花ニ異ナラス然

レ氏只花瓣ノ色緑ニシテ全邊ニ刻邊或ハ鋸齒
邊等アリテ全ク其木ノ葉ノ形ヲナセルモノナ
リ予ガ神戶ニ居リシ頃庭前ノ梅花ニ此ノ變化
ヲナセシモノアリ同時ニ師範學校ノ庭内ノ
梅ニモ此ノ變化ヲナセシモノアリ同校ノ教師
伊藤氏之ヲ酒精ニ漬シ博物學ヲ教フルトキノ
用ニ供セリ今モ猶
同校ニアルヘシ

又雄蕊ノ化シテ花瓣ニナレルハ即チ梅海棠櫻
等ノ單瓣ナルヘキモノ、多瓣ニナリシハ固ト
蕊ヨリ化シテ瓣ニナレルナリ故ニ多瓣ナル木
ニハ實ヲ結ハスモシ梨等ニ雄蕊ノ瓣ニ化スル
モハ大ナル損失ヲ招クヘシ斯クノ如キ木ニ實

ヲ結ハサルハ雄蕊ノ數減シテ十分ナル發育ヲ
ナサ、レハナリ今梅等ノ花蕊ノ頭ノ平タクナ
レルアリ是レ將サニ瓣ニ化セントセルモノナ
リ
花ハ多ク日ニ向フ其尤モ著シキモノヲ日葵ト
ス然レ氏大抵ハ日ニ面シテ開クモノナリ故ニ
南面ノ庭ニ草花ヲ植ユルキハ花ノ背ヲ見ルヘ
シ若シ東西ニ籬ヲ結ヒ之レニ朝顔ヲ植ユルキ
ハ南邊ニ多ク花ヲ開キテ北邊ニハ少ナシ是レ
花ノ日光ヲ受ケテ其子ヲ生熟セシメント欲シ

テナリ

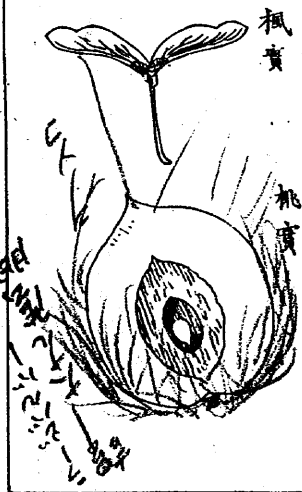
第八章 果ノ論

果實トハ植物ノ子房内ニ成熟セルモノ、總名
ナリ果實モ花ノ如ク各種ノ形狀アリ大小モ亦
一樣ナラス大ナルハ南瓜及ヒ瓢ノ如ク小ナル
ハ苧薺子罌粟子ノ如シ乾ケルアリ朝顔ノ種及
ヒ米麥等ニシテ濕ヘルハ西瓜柿ノ如シ又粒々
相因ルモノアリ莓ノ如シ
果實ハ人ノ賴テ生ヲナス處ノ物品中ノ最大要
部ニシテ就中米麥類ハ其用廣ク人間食中ノ最

多ノ部分ヲ占ム若シモ植物ノ果實ニ斯、ルモ
ノナキ片ハ吾人ノ生活ニ如何ナル困難ヲ生ス
ルヤ知ルベカラス故ニ文明ノ諸國ニ於テハ耕
作ヲ缺クベカラサル所ノ術トナス亦宜ナラズ
ヤ

果實ニ外包アリテ其中ニ穀ヲ生ス其種類ニヨ
リテ各名ヲ異ニス米等ニ於テハ之ヲ穀ト云ヒ
豆類ニ於テハ之ヲ莢ト云ヒ栗柯子等ニハ之ヲ
殼ト云ヒ總テ之ヲ稱シテ萌ト云フ

楓樹ノ實ハ其形翅ヲ張リタル如ク桃梅等ハ核



外ニ軟肉アリテ核ヲ
護ス核ノ肉ニ白キ粒
アリ之ヲ仁ト云フ桃
梅杏巴且吞等皆是ナ
リ人ノ食スル處ハ即

チ核外ノ軟肉ナリ其肉ノ不熟ナルハ酸味烈シ
ク熟スルニ及ヒテ甘味トナル總テ果實ノ熟ス
ルハ太陽熱ノ作用ニヨリ化學機能ヲ起シ煮熟
スルナリ故ニ菓實ノ熟スルハ火ヲ以テ之ヲ煮
ルニ同シ此類ノ果ヲ核果ト云フ

馬齒莧^{スベリヒユ}ノ如ク其萌恰モ莖ノ如クニシテ實ノ半ヨリ劈裂スルヲ莢果ト云ヒ楓子ノ如ク鳥翼形ヲナスヲ翅果ト云ヒ榛子柯子ノ如ク堅クシテ乾ケルヲ乾果ト云ヒ荏子^{エゴマ}ノ如ク實乾ク片ハ速ニ其殼ノ種子ト相分ルヲ穀果ト云ヒ小麥ノ類ヲ穎果ト云ヒ藜ノ如ク小ニシテ膜ヲ被フルヲ胞果ト云ヒ葡萄ノ如ク多肉多漿ナルヲ漿果ト云フ

第九章 林娜氏自然分科

植物モ亦動物ノ如ク各部ニ區分ス故ニ某樹ハ

某綱ノ某目某科ニ屬スト恰モ脊骨動物ヨリ胎生動物ヲ分チ是ヨリ啖肉動物ヲ分チ又獅子犬等ニ分カツト同シ植物ハ其種類極メテ多ク之ヲ大別スルモ十萬種アリ植物トハ喬木灌木草本ヲ包括シテ稱スル處ノ名ナリ

植物分科學ハ植物ヲ學フニ於テ必需ノ法ナリ此ノ區分ノ法モ古ヨリ種々ノ說アリ或ハイ口ハノ字ノ順序ヲ以テ植物ノ名ニヨリテ之ヲ分別スルノ法即チ無花果^{イチヂク}莢^{ボウ}若^カノ如クセル說アリ或ハ根ノ構造ニヨリテ別チ或ハ葉ノ形狀ニヨ

リテ之ヲ別テルアリ或ハ開花時侯ニヨリテ産地ニヨリ藥用ノ如何ニヨリテ區別セルアリ其法甚タ一定ナラザリキ然ルニ凡ソ二百年前ガオレー氏ハ其大小ト外形ニヨリテ之ガ區分法ヲタテタリ又ヒュージミラル氏ハ「バツフォン」氏ノ動物ヲ家畜野産ノ兩部ニ分テル法ニ倣ヒ又植物ヲ家産野産ノ兩部ニ分テリ

今ヨリ以前二百年間ニ漸々ニ其學科ノ歩ヲ進メテ甲起リ乙仆ル、ノ有様ナリシガ林娜氏ノ

分科法ト「ザツシユ」氏ノ自然分科法ト世ニ出デ、ヨリ衆論遂ニ消滅シテ地ヲ此ノ二氏ニ讓ルニ至ル林娜氏ノ法ハ之ヲ雄蕊ノ離合長短位置ト數トニヨリ之ヲ廿四綱ニ分チ而シテ雌蕊ノ性質ニヨリ再ヒ之カ目ヲ建ツ

林娜氏ノ區分法ハ甚タ簡單ナルヲ以テ世ニ賞セラレ已ニ前ニモ云ヘル如ク雌雄兩蕊ノ如何ヲ以テ之ヲ區分セシモノナレハ今此ニ花アリ其雄蕊ハ一二シテ雌蕊ノ二ツアル片ハ必ス第一綱ノ第二目タルヲ證スベシ今其區分法ヲ下

ニ序列セン

(イ) 有花部 顯著ナル花アルモノ

(ハ) 兩性花 同花中ニ雌雄兩蕊アルモノ

(一) 雄蕊ノ長短不定ニシテ獨立ナルモノ

(7) 第一綱 一雄蕊 一根ノ雄蕊アルモノ (モナント)

生姜 墨華 水馬薺等

(2) 第二綱 二雄蕊 二根ノ雄蕊アルモノ (デアンド)

連翹 素馨 胡椒等

(3) 第三綱 三雄蕊 三根ノ雄蕊アルモノ (ツライアシ)

番紅花 大麥 穀精草等

(4) 第四綱 四雄蕊 四根ノ雄蕊アルモノ (テトラシ)

車前草 兔絲子 冬青等

(5) 第五綱 五雄蕊 五根ノ雄蕊アルモノ (ペンタリ)

茄子 牽牛 五加等

(6) 第六綱 六雄蕊 六根ノ雄蕊アルモノ (ヘキサシ)

水仙 稻 澤瀉等

(7) 第七綱 七雄蕊 七根ノ雄蕊アルモノ (ヘプタシ)

七葉樹 三白草 リメウム等

(8) 第八綱 八雄蕊 八根ノ雄蕊アルモノ (オクタシ)

蓼 柳葉菜 無患樹等

(9) 第九綱 九雄蕊 九根ノ雄蕊アルモノ (イナンドリア)

樟 肉桂 大黃等

(10) 第十綱 十雄蕊 十根ノ雄蕊アルモノ (デカントリア)

石竹 虎耳草 高陸等

(11) 第十一綱 十二雄蕊 十二根ヨリ十九マデノ雄蕊アルモノ (ドデカンドリア)

千屈菜 細辛等

(12) 第十二綱 二十雄蕊 廿根以上ノ雄蕊アリテ萼ニ

ツクモノ (イコサン ドリア)

薔薇 桃 梨等

十一綱 十二雄蕊ハ必ス十二雄蕊アルニ非ス
十二根ヨリ十九根マデノ雄蕊アルモノヲ總稱ス

十二綱 二十雄蕊モ亦二十以上ノ雄蕊アルモノヲ總括ス而ルニ十二雄蕊或ハ廿雄蕊ト限レル名ヲ付スルハ不適當ナレ氏妥當ノ字ナキヲ以テ已ヲ得ス斯ク名付クルナリ

(13) 第十三綱 多雄蕊 廿根以上ノ雄蕊子床ニ付

スルモノ (ポリアンダ)

牡丹 芍藥 木蘭等

是ヨリ以上ノ諸綱ハ皆雄蕊ノ數又柱頭ノ數

ニヨリ其目ヲ分ツ

(二)雄蕊ノ長短不等ニシテ獨立ナルモノ

(14)第十四綱 二雄長二雄短者 四根ノ雄蕊アリテ二根ハ

長ク二根ハ短キモノ (ダイテイ ナミヤ)

薄荷 紫蘇 胡麻等

(15)第十五綱 四雄長二雄短者 六根ノ雄蕊アリテ二根ハ

他ノ四根ヨリ短キモノ (テトラ ナミヤ)

薺 芥子 大根等

是ヨリ以前ノ諸綱ハ子皮ノ大小ニヨリテ以

テ其目ヲ分ツ

(三)雄蕊ノ一束ニ結ホリタルモノ

(イ)雄蕊豆ニ結束シ或ハ二束トナリテ雌蕊

ニ聯結シタルモノ

(16)第十六綱 単体雄蕊 雄蕊ノ草柱ノ如クナリタル

モノ (モサン デル アイア)

茶 椿 茶山花等

(17)第十七綱 二体雄蕊 雄蕊ノ二束トナルモノ (デア デル アイア)

豌豆 藤 遠志等

(18)第十八綱 多体雄蕊 雄蕊ノ數部ニ分レ一部毎ニ

一束トナルモノ (ポライデ
ルワイア)

以上ノ諸綱ハ雄蕊ノ數ニヨリ其目ヲ分ツ

(い) 葯ハ付着シテ雄蕊ハ獨立ナルモノ

(19) 第十九綱 雄蕊圍雌蕊者 五雄アリテ互ニ結着ス
ルモノ (シンセ
子シエ)

向日葵 菊 薊等

(は) 雄蕊雌蕊ニ付着スルモノ

(20) 第二十綱 雄蕊着雌蕊 六雄蕊アリテ雌蕊ニ着
シ体ヲナスモノ (ツナン
ドリエ)

鶴子草 鬼督郵 玉蕊花等

(ろ) 單性花

(21) 第二十一綱 雄雌同株者 同幹ニ兩性ノ花アルモ
ノ (モノエ
ンア)

松 秋海棠 胡瓜等

(22) 第二十二綱 雄雌異体者 雄草 (或ハ) 雌草 (或ハ) 別
ナルモノ (ガオエ
シア)

蘇鐵 麻 柳等

(23) 第二十三綱 雄雌雜居者 或ハ雄或ハ雌又ハ兩性花
ニテ兩三異株ナリ (ポライガ
ミア)

楓 無花果 秦皮等

以上ノ諸綱ハ其雄蕊ノ束結ノ數或ハ關係ニ
ヨリ其目ヲ分ツ

(口) 無花部 或ハ花アルモ顯著ナラサルモノ

(24) 第廿綱 殖機隱微者 生殖機能ノ他ノ植物ノ

如ク十全ナラザルモノ

(クライプ
トガミア)

薇^ビ 昆布^キ 蕈^キ等

林娜氏ノ區分法ハ則チ此ノ如ク簡單ナルヲ以
テ賞譽セラル但合衆國ノ如キハ此ノ廿四綱中
ニ於テ第十一綱第十八綱及ヒ第廿三綱ニ屬ス

ル植物ノ種類甚タ少ナキヲ以テ之ヲ省キテ廿
一綱トセリ

第十章 分科

植物ヲ分科シテ三百三科トス即チ外長部二百
三十一科内長部四十四科上長部三科通長科十
一科寄生類十四科ナリ今下文ニ於テハ其尤要
ナルモノヲ掲ケテ以テ初學ノ助ケトナス蓋シ
悉ク此ノ三百三科ヲ細説スルハ此ノ小冊ノ能
ク盡ス處ニアラサルナリ

植物ノ尤モ著明ナル區分ハ林氏ノ分科法ニモ

植物小考 植物篇卷一 七
示セシ如ク有花部及ヒ無花部ナリ有花部ニハ
外長ニ屬スルモノ多ク内長ハ甚タ少ナリ無花
部ニハ上長及ヒ通長部ニ屬スルモノ多シ
外長ニ屬スル植物ハ種々ノ形ナル被子アリ
或ハ之ヲ薔ト稱シ或ハ分別シテ核果翅果乾果
胞果漿果殼果穎果等ト稱スルハ前ニ説ケルカ
如シ然レ氏外長部ノ内ニ於テ無瓣花ニ屬スル
處ノ杉、松、楊、柳、柏等ノ如キハ此ノ例ノ外ニシテ
其果ハ外被アルナキヲ以テ之ヲ前ノ諸果類ヨ
リ區分シテ裸子屬ト稱ス故ニ外長部ヲ又其果

ニヨリニ大區分シテ即チ被子屬及ヒ裸子屬ト
スルナリ

内長部ニ屬スル處ノ植物ハ前ニモ示セル如ク
其種類多カラス殆ント外長部ノ五分ノ一二過
キス花衣アルト花衣ナキトノ二部ニ分チ其花
衣アルモノハ水仙鬱金等ニシテ其花衣ナキハ
諸草類穀草類ナリ且此ノ穀草類ニ屬スルモノ
ハ其種類極メテ少ナク其數ハ有花部ノ十二分
ノ一二過キス

無花部ニ屬スル植物ハ其構造甚タ單一ニシテ

只細胞ノ集合ニヨリ其形ヲナス之ヲ分チテ上
長及ヒ通長ノ二部トナス通長ハ只平カナルカ
或ハ圓ロク其体ヲ増殖スルノミ上長トハ上ヘ
其体量ヲ増スノミ上長部ハ薇類陰草類苔類等
ナリ通長ニ屬スルハ菌類海草類等ナリ之ヲ前
ニ示セル如ク第廿四綱ノ殖機隱微ナルモノト
云フ

植物ノ第一區分ニ屬スルモノヲ外長部トシ此
ノ第一級ヲ被子類トス而シテ薔薇族ヲ以テ之
カ第一ニ算ス此ノ薔薇族ハ多瓣花ノ一二シテ

此ノ族ニ屬スルモノハ只本來ノ薔薇ノミナラ
ス莓類檣梨梅櫻桃杏巴且杏^{マル}楸^モ等モ亦此ノ種
族ニ屬スヘシ

此ノ種族ニハ其果ヲ食用トナスヘキモノ多ク
其葉ハ互生葉ナルモノ多シ又野生ノモノハ花
ハ大抵單瓣ニシテ五出ナリ野薔薇野梅等ヲ見
ニ知ルヘシ而レ氏本來ノ薔薇中ニシテ五出ナ
ラサルモノアリ

此ノ種族ノ花ノ元來五出ナルヘキモノハ五出
ナラサルモノハ培養ニヨリ雄蕊ヨリシテ瓣ニ

變化セルナリ其原因ハ培養ノタメ根枝等ヲ截斷シ本來ノ生殖ヲ遂クル能ハサルニ出ツルナリ故ニ此ノ變形ノモノニハ十分ナル果實ナクシテ或ハ食フ能ハサルカ之ヲ時クモ發生セルモノナリ即緋桃、八重櫻、八重紅梅ニ於ケルカ如シ此ノ類ハ皆其果實ヲ十分ニ發育スルヲ能ハサルナリ

薔薇ハ其類甚タ多ク二三百餘種アリ花ノ色ヲ愛スルアリ其香ヲ愛スルアリ單瓣ナルアリ多瓣ナルアリ花ノ色モ種々ニシテ形モ亦種々ア

リ樹ノ内ニテ薔薇ノ如ク花色花形ニ變化多キモノアルナシ

薔薇ノ内ニ綠色ナル花アルアリ尤珍ラシキモノトスレ氏此ノ種ハ前ニ示セル如ク花瓣ノ葉ニ變化セントセルモノアリ

第十一章 被子類薔薇科

薔薇(シロイセ)ハ皆ナ林氏ノ第十二綱廿雄蕊ニ屬ス其葉或ハ幹ニ刺アルアリ刺ナキアリ開化ノ候一樣ナラス常ニ花ヲ開クモノアリ長春ト云フ四季ニ開クアリ二季ニ開クアリ或ハ一年只

ナリ日本ニ於テハ花ノミヲ愛スレ氏種類ニヨ
 リテ實ヲ食フヘキモノアリ又此ノ實ヨリ酒ヲ
 醸スヘシ種類數十百種アリ
 杏(ルメラナス。ア)山查子(クシタギユ)モ此ノ種類
 ニ屬ス
 榲桲(サルノボ。ルサイトニア。バ)ハ其木橘ニ似テ枝多ク節ニ
 瘤アリ葉面ハ滑ラカニ葉背ニ細毛アリテ互生
 葉ナリ葉ハ楨櫨ノ如クニシテ圓口シ香氣佳ナ
 リ砂糖漬トナスベシ
 梅(メラナス。ド)ハ人ノ能ク知ル處ニシテ日本人

ハ殊ニ古シヘヨリ此ノ花ヲ愛ス日本ノ種類ノ
 ミニシテ三百餘種アリ此ノ種ハ野梅(アラナカ)
(ナ)ヲ以テ本種トナス
 橘(キウ)子(マ)ハ元來中亞細亞ヨリ其種ヲ發セ
 シモノト思ハル即チ今其類甚ク多ク一十餘種
 ニ至ル花ハ五瓣白色ニシテ集傘形ナリ
 梨(パイラス。コ)ハ日本ニモ數種アリ空閑梨(コガナシ)青梨
 大場梨松尾梨牛面梨(ウシオモ)鹿梨等アリ梨ハ元來歐羅
 巴亞細亞ニ自生セシモノナリ然レ氏南方印度
 ニ於テハ見ル稀ナリ其木ハ六十尺ノ高サニ長

博物志 卷之十一 木部 茶
即チカノリア。ジャポニカノ條ヲ摘譯シ以テ羅
甸名ヲ付シ參考ノ一助ニ供ス

山茶ハ茶ノ如ク灌木ニアラス葉ハ堅ク厚クシ
テ細鋸齒邊ヲナス光澤アリ花ニ單瓣複瓣アリ
木材ハ堅緻ニシテ核三角形ノ弧邊ヲナス内チ
ニ肉アリ多クノ油分ヲ含メリ此ノ油ハ塗リ物
等ノ用ニ供スヘシ或ハ之ヲ日本薔薇ト稱ス二
百餘種アリ林氏ノ第十六綱單體雄蕊ニ屬ス
茶ハ尤要用ナルモノニシテ始メ支那ニ産セリ
日本ニ渡リシハ建久三年榮西ナル僧ノ始メテ
支那ヨリ持テ歸リ杻尾ノ明惠ニ贈ル明惠之ヲ

栽ユ爾後歲月ヲ經ルニ從カヒ殆ント全國ニ繁
殖ス木ハ甚タ高カラス通例七八尺ニ過キス其
葉ハ綠色ニシテ厚ク鋸齒ヲナス茶ハ葉ノ稚キ
ヲ以テ製ス花ハ白ク五瓣ニシテ單瓣ナリ實ハ
一苞ニ一個ヨリ三四個アリ一個ナルハ圓口ク
數個アルハ一邊弧三角形ヲナス油ヲ製スレバ
好キ燈油トナルベシ茶モ亦林氏ノ第十六綱單
體雄蕊ニ屬ス
錦葵科ニ屬スルモノ、第一要用ナルモノハ綿
類トス

草綿(ゴツシールビム)ハ鐘形ノ萼アルモノニシテ
葉ハ三裂或ハ四裂ニ尖頭アリ幹ノ長サ三四尺
ニ過キズ幹ハ粗糙ニシテ暗點アリ花ハ大ニシ
テ美ナル黄色ナリ核ハ白キ毛ヲ被フル熱地ノ
産ナリ核ニ毛ヲ被フルハ寒ヲ防グ爲メナリ
バルバトース草綿(バルバドールヒュム)ハ阿米利加ニ
於テ多ク産ス草綿種ノ尤利益アルモノニシテ
毛ノ色白ク柔カク恰モ絹ノ如シ毛ノ長サ七八
分アリ又之ヲ繰ルコト甚タ易シ此ノ類ニ二種
アリ幹ノ高サハ四五尺ニ至ルベシ花ノ色黄ナ

リ以上皆林氏ノ第十六綱單体雄蕊ニ屬ス
蜀葵(マルセア)錦葵(マルバ)共ニ其花美ナ
ルヲ以テ賞セラル蜀葵ハ其花木槿ノ如クニシ
テ更ニ大ナリ色ハ紅白紫等種々アリ瓣ニ單ナ
ルアリ複ナルアリ瓣ニ鋸齒邊アルアリ又無キ
アリ雄蕊柱心ニ布滿シ其形錦葵ト同シ幹ノ高
サ七八尺アリ又タ一種矮キク一尺程ナルモノ
アリ

錦葵ハ其幹紫色ニシテ葉互生シ圓形細鋸齒ア
リ柄本ニ細鱗狀ノ二托葉アリ花大ニシテ色ハ

淡紅紫深紅等アリ外萼三葉内萼五尖子房萼中
二匿レ一柱頭十裂雄蕊ノ本ハ筒様ニシテ柱ヲ
圍ミ先キハ分裂數十鬚ヲナシ白葯白粉ヲ吐ク
花ノ開キタル初メハ只一柱ノ白粉ヲ滿布スル
ノミ幹ノ高サ二尺ニ過キス

黃蜀葵(ヒビスカ。ミ)野西瓜(ヒビスカ。ス)モ亦錦葵
科ニ屬ス黃蜀葵ハ其花甚タ美ナリ其實ハ猿面
ニ似タルヲ以テ之ヲサルゴマト稱ス葉ハ五尖
ニシテ缺刻深ク麻ノ葉ノ如シ秋ニ至リ葉腋毎
ニ一花ヲ開ク草綿花ニ似タリ根ハ製紙ノ粘料

二用ユ

橙類ノ内回青橙(ダイダイ。シトラス。バ)ハ又苦橙ト稱ス此
ノ類中蜜柑香橙等尤モ美ナリ柑類ハ其種類ニ
三百アリ

檸檬(シモナム)ハ高ク大ナル木ニシテ二十尺以
上ニ達ス樹皮滑カニシテ枝細ク刺アリ葉圓口
ク銳尖頭ニシテ葉面ハ滑ラカナリ花ノ外部ハ
堇花色ニシテ内面ハ白ク甚タ美香アリ果ハ卵
形ニシテ橘子ヨリ大ナリ皮ノ色黃ニシテ厚ク
亦タ佳香アリ果ハ酸味ナル水分ヲ含ム之ヲ製

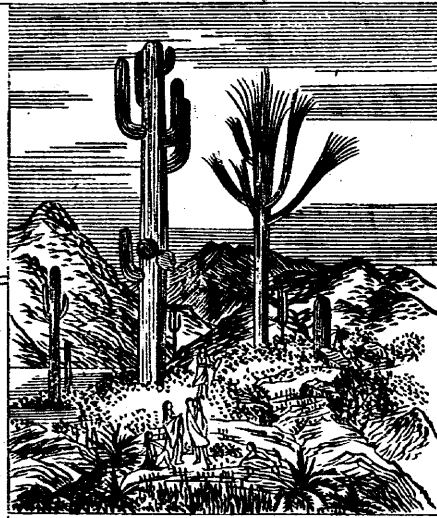
シテ佳ナル飲料ヲ製ス即チ「モノナ」デナリ核
ハ二個ヨリ六個程アリ此ノ種ハ元來熱帶亞細
亞ノ産ナリ而シテ歐洲ニ移殖セシナリ五六月
ノ頃花ヲ開ク
此ノ外人ノ能ク知ル處ノ柑金橘回青橙等モ皆
佛手柑科ニ屬シテ林氏ノ第十三綱多雄蕊ニ屬
ス「リンドレ」氏ノ説ニヨルニ香橙クシシガ「シトラス。オ
ム」ノミニシテ其差異アル二万種ノ多キニ至ル
ト

第十三章 神仙掌科

神仙掌カクタハ又霸王樹トモ書ス植物中甚タ
奇異ナルモノナリ亞米利加ノ南部ニ多ク繁殖
ス其種類甚タ多シ亞米利加南部ノミニテモ猶ホ
八百餘種アリ

神仙掌ハ日本ニ於テハ九州ノ南部及ヒ琉球地
方ニ多シ此ノ植物ハ暖地ニ非サレハ生セス然
レ氏暖地ニテハ甚タ生殖シ易シ葉ナク只幹或
ハ幹枝アルアリ花ハ幹ヨリ發生ス幹ノ形狀千
態万異ニシテ卵形ノ如キアリ毬ノ如キアリ四
角ナルアリ五角六角ナルアリ皆鋭キ刺ヲ生ス

花ニ紅白黃淡紅淡黃等ノ種々アリ
 日本ニ生スル神仙掌ノ通例ナルモノハ形子半
 掌ノ如クニシテ橢圓形ナリ大小一樣ナラス其
 狀恰モ胡瓜ヲ偏平ニシタルカ如シ能ク培養シ
 タルハ此ノ片々相積ミ五七枝ヲ生シ高サ六七
 尺ニ至ル体ニ疣及ヒ刺アリ夏候花ヲ開ク花ノ
 生スル處一定ナラス或ハ頂ニアリ或ハ傍ニア
 リ大サ一二寸許重瓣赤黃色ナリ暖地ニハ花後
 實ヲ結フ五稜ニシテ兩端狹シ霸王樹族ハ何レ
 モ林氏ノ第十二綱北雄蓋ニ屬ス



霸王樹中尤モ奇絶ナルモノハ亞米利加ノ新墨
 是哥ニ産スル大霸王樹セリノース、ギガナリ即チ
 下圖ニ示ス處ノ如シ是レ此ノ種族中ノ最タル
 モノナルベシ山側或ハ岩頭等ニ生ス其狀直立
 シテ枝ヲ生シ恰モ電信
 柱ヲ建立セルカ如シ且
 ツ此ノ山頭ヨリ彼ノ山
 頂ニ至ル等都會ノ知ラ
 サルモノハ必ラス電信
 柱ト誤リ認メサルナシ

其枝ハ初メハ疣ノ如クニシテ長スルニ隨ヒ圓柱狀ヲナシ再ヒ長スレハ折レテ天ニ朝ス此ノ樹ノ大ナルハ五十尺ヨリ六十尺ノ高サニ至ルモノアリ其幹ノ直徑ハ二尺以上アルヘシ幹ノ上下ノ兩端ハ稍ク殺ケテ中央ノ如ク太トカラス其直徑ハ一尺程モアルヘシ枝ハ初メニ幹ト直角ヲナシ後チ再ヒ幹ト並行シテ直上ス花ハ幹梢或ハ枝端ニ開ク乳酪色ニシテ長サ三四尺直徑二三寸アリ菓ハ綠色橢圓形ニシテ長サ二三寸ニ過キス其菓ノ頭ハ扁^{ヒラ}平タシ熟スルニ及

ヒテ三四片ニ分裂ス其片ノ外ニ向テ反リタル内ニ小サキ黒キ種子アリ土人ハ之レヲ食物トス

第十四章 莢豆科及傘形科

莢豆科ニ屬スル處ノ植物ニシテ草本ナルモノハ人間及ヒ獸類ノ食物トナルモノ甚タ多シ其實即チ穀ハ稚キハ軟ラカク莢ノマヽニテモ食スルヲ得熟シタルハ甚タ固シ

此ノ科ニ屬スルモノハ多ク蛾形ノ花ニシテ其實ハ必ラス莢ヲ被フル豌豆蠶豆小豆大豆青豆

等ナリ其雄蕊ハ二体ナルモノ多シ又此ノ科ノ
樹木ハ其穀食用トナラサルモノ多シ藤莢皂等
ノ如シ
耻羞草^{オダキササ}（ミモサセ）モ此ノ科ニ屬ス草本ニシテ高
サ一尺餘葉ハ分鱗狀ニテ其葉ニ觸ル、トキハ
両面ヨリ其葉ヲ疊ミ暫ラクシテ又伸フ甚タ奇
ナリ花ノ色ハ石竹色ナリ此ノ類ニ五六種アリ
蕪木^{スワウ}（カムペチアナム）モ亦タ此ノ科ニ屬ス元
來中央亞米利加ニ産スルヲ上品トス木ノ質緻
密ニシテ甚タ堅シ其色朱黄ナルヲ貴ム其葉ハ

分鱗狀ニシテ三四片ノ薄キ小葉アリ木ノ高サ
四十尺餘ニ至ル花ハ穗狀ナリ
藍靛草^{アキ}（インチゴフェス）モ亦タ此ノ科ニ屬ス此ノ
種ハ始メ喜望峯邊ヨリ其種ヲ分チンモノト考
ヘラル今藍ヲ製スルハ此ノ葉ヲ用ユ葉ハ分鱗
狀ニシテ花ハ穗狀ナリ右何レモ林氏ノ第十七
綱ニ体雄蕊ニ屬ス莢豆科ニ屬スルモノハ甚タ
多ク總計殆ント六千五百餘種アリ
傘形科モ其種類甚多ク溫帶ノ各地ニ産ス草本
ナルハ其葉及ヒ根ヲ食物トナスヘキモノアリ

胡蘿服芥等ノ如シ又其種子ヲ香料或ハ藥用ト
ナスヘキモノアリ茴香小茴香等ナリ又專ラ藥
用トナスヘキモノアリ人參（ジンセン）當歸（トウキ）防風（フウフ）羌活（キヤク）等ナ
リ
水芥（オモナン）澤芹（シユムラチ）ミツバセリ
（クライトニテニス）等ハ皆ナ食用トナスベシ水
芥ハ其葉複重鰭狀ニシテ細カク花ハ白色五瓣
ナリ澤芹ハ其葉披針狀ニシテ淺鋸齒アリ又ミ
ツバハ三裂葉ニシテ一片ニ細鋸齒アル披針狀
ナリ花ハ五瓣披針狀ナリ又オランダミツバ或

ハキヨマサニンジン（アヒュンムクラ）ト稱スルハ
鰭狀ノ鈍鋸齒アル葉ニシテ柔ラカク香氣アリ
亦食フヘシ傘形科ニ屬スルモノハ一千五百餘
種アリ以上皆林氏ノ第五綱五雄蕊ニ屬ス

第十五章 菊科

此ノ科ニ屬スル處ノ種類極メテ夥多ナリ通常
ノ菊類ハ其英ヲ茹フヘク又萵苣ハ其葉ヲ食ヒ
或ハ糖ヲ製スベク又蒼朮（ソウダク）白朮等ハ藥用トナス
ヘク又薊蘭等モ此ノ科ニ屬ス

此ノ科ハ其種類九千餘種殆ント一万二至ル故

二植物界ノ全數ノ十分ノ一ヲ占ムルト云フヘ
シ大抵草本ノモノ多シ野生ノモノ多ク培養ス
レハ容易ク繁殖スベシ又牛蒡朝鮮薊蒲公英等
モ亦此ノ科ニ屬フベシ

此ノ科中尤人目ヲ娛シマシメ且著シキモノハ
薊（パイレンサラム。チャ）ニシテ其品類甚夥シ日本
ノ本土ニ産セシハ野薊（ムクライサンセマ）ニシテ
今培養セルハ支那ヨリ舶載セシモノナル疑ヒ
ナシ（考證ノ諸）辨ノ形狀、色、及ヒ長短等實ニ夥シ
キ差異アリ皆林氏ノ第十九綱雄蕊着雌蕊ノ第

二目ノ過量多雌蕊ニ屬ス其種類ニヨリ四季共
ニ花ヲ開ク

萬苣（サチバタカ）モ其種類甚多シ通例其葉ヲ食物
トスルハ人ノ能ク知ル處ナリ又日葵（ヒマワリ）
スハ此ノ科ノ内ノ尤長高キモノニテ五六尺ニ
達シ葉ハ心臟形ニシテ尖リ莖葉共ニ細刺毛ア
リ花ノ大サ直徑六七寸色黃ナリ時々日ニ向テ
其方向ヲ轉ス朝ハ東ニ午時ハ南ニ夕ハ西ニ向
フ故ニヒマワリノ名アリ此ノ種子ハ甚有用ナ
ルモノナリ又蜀薊（エムギ）モ此ノ科ノ内ニ屬ス以上諸

種ハ皆林氏ノ第十九綱雄蕊着雌蕊ニ屬ス

第十章 素馨科及ヒ忍冬科

素馨科ハ大數一百餘種アリ此ノ内藥用トナル
ヘキモノ多シ大抵分繖狀ノ葉アリテ香氣ノ快
モノ多シ溫帶ノ各地ニ産ス舊世界ニ産スル種
類多シ新世界ニアルモノハ僅々一二種ニ過キ
ス今日本ニアル處ノ素馨ハ多ク琉球ヨリ來レ
ルモノナリ

素馨マシエンス種ハ灌木ニシテ幹ニ沿フテ小枝ヲ
生ス花ハ傘房形ニテ白色或ハ黃色ナルモノア

リ日本ニアルハ能ク寒氣ヲ防キ培養スル片ハ
三四尺ニ長スヘシ印度ニアル卷花素馨ジエス
ミナヒ
タルハ高サ十二三尺ニ至ル此ノ種ハ皆林氏ノ

第二綱二雄蕊ニ屬ス

忍冬ロニハ其類種々アリ日本ニ産スルモノハ
山野ニ多ク自生セル蔓草ニシテ樹ニ纏フテ繁
延シ葉ハ對生ニシテ橢圓尖頭ナリ葉面細毛アリ
春新葉ヲ生ス五月頃葉間ニ花ヲ開ク香氣アリ
川テ漏斗狀ナリ蕾ハ淡紫色開クニ及ヒテ白色
ニ微紫ヲ帶フ日ヲ經テ白ニ變シ淺黃トナリ從

テ深黄トナル故ニ一枝中黄白相映ス之ヲ以テ
金銀花ト稱ス葉花共ニ藥用トナスヘシ林氏ノ
第五綱五雄蕊ニ屬ス

第十七章 石南科

石南^{シナン} ^{カエリ}ハ通例シヤクナギト稱ス深山幽谷ニ
生ス高サ六七尺ニテ叢生ス葉ハ石葦ノ葉ニ似
テ厚ク末廣ク本狹ク深緑ニシテ背ニ褐色ノ毛
アリ冬ヲ經テ枯レス枝梢コトニ簇カリテ豆生
ス五月頃梢頭ニ花アリ形躑躅花ニ似テ五瓣ヨ
リ七八瓣ニ至ルモノアリテ一様ナラス色淡紫

ニシテ數十花簇カリ開ク遠望スレハ淡紫牡丹
花ノ如シ又白色ナルモノト白色ニ紅班ナルモ
ノアリ

石南ハ下野日光山太和山上ノ峯等ニ生ス木理
緻密ニシテ淡紅色ヲ帶フ日光ニ於テハ尺^{モリ}箸等
ニ造リ石物トス石南ハ培養甚難シ是レ寒地ニ
生スル質ナレハナリ故ニ花戸等ニ於テ稀ニ見
ルヲアリ

外國ニ産スル石南ノ内ニ五葉石南^{エリカ} ^{テト}
總把石南^{エリカ} ^{テト}等アリ前ノ種ハ蘇格土蘭

二産シ後ノモノハ南亞米利加ニ産ス皆林氏ノ
第八綱八雄蕊ニ屬ス

第十八章 唇形科及ヒ鐘形科

唇形科ニ屬スル處ノモノハ其花辦唇形ヲナス
ヲ以テ容易ク區分スルヲ得ベシ多ク溫帶地方
ニ産ス紫蘇胡麻薄荷等ハ皆此ノ科ニ屬ス人ノ
能ク知ル處ナリ
鐘形科ニ屬スル處ノ植物ニハ喬木灌草本アリ
或ハ蔓ニシテ長ク繁殖スルモノアリ多ク熱帶
地方ニ産ス然レモ溫帶ニ産スルモノモ亦少ナ

カラス

此ノ科ノ内人ノ能ク知ル處ノモノハ山小菜^{ホタルアフロ}
^{ハヌラ}（^パ）アギ、リ^{（サルビヤ）}野麝香草^{（サイマス）}
^ム等ナリ

山小菜ハ又ツリガ子サウトモ呼フコトアリ花
ノ形千風鈴ノ如ク色淡紫ナリ林氏ノ第五綱五
雄蕊ニ屬ス又アキバリハ溪澗ノ陰地ニ生スル
宿根草ニテ葉ニ長柄アリテ對生ス林氏ノ第二
綱ニ雄蕊ニ屬ス野麝香草ハ山野ニ自生シ莖ハ
綿ノ如ク匍匐シテ蔓延ス處々鬚根ヲ下シ冬ヲ

經ルモ萎マス花ハ筒狀ニシテ淡紫色ナリ花葉
共ニ佳香アリ通例ノ麝香草(チエロノホシス)ハ山
中樹陰ニ生ス全体麝香ノ如キ佳香アリ乾ケハ
脱ス何レモ林氏ノ第十四綱二雄長二雄短ナル
モノニ屬ス

第十九章 榲科

榲科ハ甚有益ナル植物ニシテ堅硬ナル良材ヲ
出ス其類二百六十五種アリ其内二人ノ能ク知
ル處ノモノハ榲(カキナラ)青岡(キナシ)樹柯(シモ)榛栗(シノ)胡桃(カキ)山毛櫟(カノキ)等ナ
リ

櫛(カシエロ)ハ此ノ種ノ總名ニシテ品類多シ日本
ニテ通例用井ル處ノモノハ赤櫛(シエロカ)ナリ
其類數種アリ又白櫛(クエロバカ)アリ又麩櫛トモ
稱ス赤櫛ノ實ハ食フ可カラサレ氏白櫛ノ實ハ
食フベシ

櫛ノ類ハ甚タ大ナルモノアリテ高サ百五六十
尺ニシテ直徑六七尺ニ至ルモノアリ赤櫛ノ材
ハ其色赭紅ニシテ白櫛ハ白シ

櫛種ハ又其壽ノ長キモノアリテ曾テ埴(テカシトル)埴(カシトル)度爾
氏ノ其水理ノ層ヲ檢シテ之ヲ計算セシヲ見ル

ニ櫛樹ハ八百十年ヨリ千八十年及ヒ千五百年
ヲ經シモノアリシト

栗(カベスタニ)ハ人ノ能ク知ル處ニシテ其實食フ
ヘク其材ハ堅クシテ建築ノ用ニ供スヘシ數種
アリ山毛櫟(ルバガス、シ)ニモ二種アリ通例ノモ
ノハ其材白シ其赤キヲ赤山毛櫟(フアカス、フエ)ト云
フ右何レモ林氏ノ第十五綱單体雄蓋ノ部ニ屬
ス

第廿章 榆科柳科及ヒ樺科

榆(ニ)ハアルマスカムニ二種アリ一ヲ春榆ト稱ス即

チ通例ノ榆ナリ一ヲ秋榆ト稱ス葉ハ櫻ニ似テ
互生ス此ノ木ハ寒地ニ産シ林氏ノ第五綱五雄
蓋ニ屬ス

柳(セリカ)ハ其類甚タ多シ水邊ノ濕地ニ産ス長

楊柳(サリツキス、ト)ト稱スルハ白楊(ハコヤキ)ノ種類ニシテ

籃等ヲ造ルベシ白楊(トプレム)ハ山野ニ自生ス

種々ノ箱等ヲ作ルベシ水楊(カヤキ)ハ人ノ能ク知ル處

ナリ大ナルハ十五六尺ニ至ルヘシ

垂柳(サリツキス、バ)ハ庭等ニ多ク植ユ水邊ニ生ス

葉細カク枝ノ短カキアリ葉大ニシテ枝ノ長ク

垂レ二三丈アリテ地ヲ拂フアリ是レ垂楊ナリ
枝ノ短カキヲ官柳ト云フ柳ハ林氏ノ第廿二綱
雄雌異種ナルモノニ屬ス

樺(アルバラ)ハ日本東北諸國ニ多ク産ス就中信濃
甲斐ニ多シ葉ハ桑ノ如クシテ尖リ鋸齒アリ樹
皮ヲ以テ用ニ供ス白クシテ横ニ黒班アリ恰モ
櫻皮ニ同シ樺ノ品類甚多シ林氏ノ第廿一綱雄
雌同株ナルモノニ屬ス

第廿一章 外長部ノ第二裸子類

松科

此ノ科ニ屬スルモノハ松杉側柏扁柏榧等種々
アリ多ク器財建築ノ用ニ供ス松(パイナス)ハ我日本
ニ多シ所用極メテ廣シ白松(パイナス)ハ其材輕
ロク柔カシ檣等トナスベシ松ハ林氏ノ第廿一
綱雄雌同株ナルモノニ屬ス

扁柏(ヒノキ)カブレサス(サ)ハ尾張大和等ノ諸山ニ多ク
培養ス其ノ材ノ用廣シ其ノ木ノ高サハ六七十
尺ヨリ百尺以上ニ至ル又側柏(フタバタ)花柏等アリ林氏
ノ第廿一綱雄雌同株ナルモノニ屬スベシ
水松(イナギ)バカダス(ス)モ亦此ノ科ニ屬ス日光山ニ多ク

博物小書 植物類考 下
産ス木理緻密ニシテ色紅褐ナリ直徑一尺二三寸ニシテ層圈二百八九十層アリ故ニ直徑一尺以上ニ長スルハ二百五十年以上ヲ經ルナリ以テ生長ノ遲慢ナルヲ知ルヘシ其葉ハ鎮痛劑トナスヘシ是レ亦林氏ノ第廿一綱雄雌同株ナルモノニ屬ス

第廿二章 無穀類

杜若科及ヒ百合科

杜若科ニ屬スルモノハ草本ノモノ多クシテ花ノ美ナルモノナリ即菖蒲シヤウブ、溪蓀アヤメ、杜若カキツバタ、鳶尾イチョウハツ、射干ヒアキ、胡

蝶花等ナリ

鳶尾ルアイリス、ゼハ花園等ニ植ユル草ニテ葉モ

劍狀ニシテ脊ヨリ數片扁列ス花ハ燕子花ノ如

シ色ニ種々アリ

花菖蒲ハナシヤウブ、クアイリス、テハ玉蟬花トモ書ス人ノ能ク

知ル處ナリ花ニ數種アリ水中ニ生スル杜若ノ

如シ皆林氏ノ第三綱三雄蕊ニ屬ス

番紅花サフラン、カスモ亦此ノ科ニ屬ス春秋二種アリ此

ノ色ヨリ黄色或ハ紅色ノ顔料ヲ製スベク又藥

トナスベシ林氏ノ第三綱ニ屬ス今日本ニ通例

ラシハ六雄蓋ニシテ石蒜科ニ屬スベシ真ノサフランニアラス

百合^{アリム}ハ日本ニ産スルモノ其類多シ二三百種ニ至ルヘシ山百合^{ヤリハアムジ}ハ尤通例ナルモノナリ百合ノ根ハ鱗狀ニシテ澱粉多キヲ以テ食物トナスベシ

卷丹^{マユリ}^{イリグリアムタ}ハ山野ニ多ク自生ス高サ四五尺ニ至ル又一種黒百合ト稱スルモノアリ加賀ノ白山ニ産スルヲ有名ナリトス高サ一尺許ニシテ卵圓披針狀ノ葉アリ四五片相集リテ二三層ヲナス殆ント輻狀ノ如シ梢ニ近ツケハ二三

葉互生ス梢頂ニ花アリ花頭傾斜シ六瓣ニシテ鐘狀ナリ色ハ暗紫帶黒殆ント黒色トモ云フベシ雄蕊四五或ハ六根アリ皆何レモ林氏ノ第六

綱六雄蕊ニ屬ス

山慈姑^{タリハシルベストリス}ハ山野ノ陽地ニ

生ス葉ハ水仙ニ似タリ花ノ色ハ白色ニシテ外邊ニ深紫ノ縁アリ數種アリ又車前葉山慈姑ハカタコユリト云フヲ今記リテカタクリト云フ澱粉ヲ取リテ菓子或ハ種々ノ食物トナスヘシ山中ニ自生ス林氏ノ第六綱六雄蕊ニ屬ス

第廿三章 棕櫚科

棕櫚科ニ屬スル處ノモノハ其種類甚多カラス
此ノ科ニ屬スルモノハ多ク熱帶ノ地ニ産ス日
本ニ産スル棕櫚ハ其材ハ格別ノ用ナシト雖氏
皮ハ繩其他ノモノニ作リテ甚有用ナリ
蒲葵^{ビロウ}（^ゴラガイフ^アーム）ハ元ト熱帶ノ産ナレ氏日
本ニ於テモ薩摩其他九州諸島ノ暖地ニ産ス印
度ニ産スル尤多ク且長大ニシテ高サ六七十尺
ヨリ百尺ニ達スルモノアリ其葉モ從テ大ニシ
テ長サ五六尺莖ノ長サ四五尺アリ其形通例ノ

棕櫚ト異ナルナシ只葉ノ分裂セスシテ一片ナ
ルヲ以テ笠等ヲ製スヘシ林氏ノ第六綱六雄薩
ニ屬ス

此ノ科ノ内尤有益ナルモノハ西國米^{サコベイ}（^ムサカスラ）
ト稱ス高サ四十尺以上ニ至ル其葉ハ芭蕉ノ如
ク一莖ヨリ二列ニ付ス葉ノ狀披針形ナリ此ノ
實ハ食フ可ラス其食用トナルヘキ部分ハ樹心
ナリ此ノ樹心ヲ製シタルモノヲ西國米ト稱ス
林氏ノ第廿一綱雄雌同株ナルモノニ屬ス
椰子^シ（^コカスナ）^フ（^エラ）モ亦此ノ科ニ屬ス日本ニ産セス

其實ハ時ニ四國或ハ奥州等ノ海岸ニ漂着スル
一アリ印度阿弗利加等ニテハ尤有用ナルモノ
ナリ實ノ大サハ殆ント孩兒ノ頭ノ如シ實ノ内
ニ漿アリ之ヲ椰酒ト云フ林氏ノ第廿一綱雄雌
同株ナルモノニ屬ス

第廿四章 禾本科

植物ノ此ノ科ニ屬スル處ノモノニハ人間及ヒ
禽獸類ノ食用トナスヘキモノ多シ此ノ科ヲ二
類ニ分ツ一ヲ半草トシ一ヲ真草トス其種類四
千餘アリ

此ノ科ノ内尤要用ナルモノハ穀類ナリ穀類ハ
人間食物ノ三分ノ二ニ居ル米(オーザ)ハ人ノ知
ル處ナリ二類アリ一ヲ粳米ト云ヒ一ヲ糯米ト
云フ粳糯共ニ早中晩ノ三類アリ粳ノミニシテ
早粳ニ六十餘種中粳ニ八十餘種晚粳ニ八十餘
種通計二百七十餘種アリ林氏ノ第六綱六雄蓋
ニ屬ス

麥モ亦其類多シ小麥(トリチウム)ヲ以テ必用ト
ス五十餘種アリ春麥(ホルチウム)ニ裸麥(セケル)
冬麥(トリチウム)燕麥(アベナ)等アリ皆食用

トナスヘシ麥ハ林氏ノ第三綱三雄蓋ニ屬ス此ノ外黍稷粟稗等モ皆此ノ科ノ内ニ屬ス

甘蔗（サクチャラム、オ）ハ其狀玉蜀黍ノ如クニシテ

莖中ニ甘キ糖汁アリ砂糖ハ是レヨリ製ス林氏

ノ第三綱ニ屬ス

竹（バンバサアラ）ハ此ノ科ノ内ノ尤長大ナルモ

ノニテ印度地方支那日本等ニ産ス歐羅巴ニハ

見ルナシ竹譜ニ載スル處ノミニシテ其類六

十餘種アリ其稚軟ナルハ食フベシ印度ニ於テ

ハ竹實ヲ食物トナス幹ハ通例圓ナレモ方形ナ

ル種アリ之ヲ四方竹ト云フ

第廿五章 無花部ノ上長部及通長部

蕨薇科及ヒ莓苔科

上長部ニ屬スル處ノ植物ハ其体量ヲ増シ上ニ

ノミ長ス決シテ周圍ニ体量ヲ増殖セス其幹皮

ニ呼吸機アリ幹ト葉ト別ニ生ス此ノ種ハ花ヲ

生セス果實ナシ此ノ種ノ重ナルモノヲ蕨薇石

韋瓦草（ヒトツバ）金星草（コネギ）石長生等トス其類無數ニシテ未

タ探檢ニ遑アラス皆林氏ノ第廿四綱殖機隱微

ナルモノニ屬ス

通長部ニ屬スル處ノ植物ハ其体ノ中ヨリ表面
ニ増殖ス只細胞ノ集リタルモノニシテ別ニ呼
吸機ナシ此ノ種ヲ大別スルモ尚二千餘種アリ
皆林氏ノ第廿四綱殖機隱微ナル者ニ屬ス
此ノ科ニ屬スルモノハ庭或ハ陰地等ニ生スル
莓苔類ヲ始メトシ石上樹皮等ニ生スル處ノモ
ノヲ包括ス

第廿六章 菌科及ヒ海藻科

菌科ニ屬スル處ノモノハ食用トナスヘキモノ
アリ或ハ劇毒アルアリ其類ノ夥シキ又推算シ

難キニ至ル加之ナラス肉眼ヲ以テ見得可ラサ
ル程微么ナルモノモ亦此ノ内ニ屬ス即チ人ノ
肺臟或ハ肉上ニ生スルモノアリ之ヲ動物寄生
ト云フ又他ノ動物ニモ生ス又食物衣服等ノ微
モ此ノ科ニ屬ス是等ハ皆顯微鏡ヲ以テ見ルニ
非サレハ詳認シ難シ菌類ハ他ノ植物ト反シ氣
中ノ酸素ヲ吸ヒ炭素ヲ吐ク恰モ動物ト同シキ
モノナリ皆林氏ノ第廿四綱殖機隱微ナルモノ
ニ屬ス

海藻科ヲ以テ分科ノ最尾トス其類亦夥シクシ

テ測ル可ラス淡鹹兩水共生ス然レハ鹹水ニ
生スルモノ多キニ居ル其構造甚不完全ナルモ
ノナリ今知り得ル處ノミニシテ尚數十種アリ
細大一樣ナラス其至小ナルハ亦顯微鏡ノ力ニ
アラサレハ見得可ラス又至大ナルモノハ海中
ニ一林叢ヲナスニ至ル此ノ内ニ於テ或ハ動植
ノ境界ヲ定メ難キモノアリ又此ノ種ノ内無數
ニ相簇リテ水面數里ニ連リ爲メニ水色ヲ變セ
シムルヲアリ紅海ノ如キハ曾テ此ノ浮藻ハ紅
色ナルアリテ浮流シ爲メニ水色ヲ紅變セシヲ

以テ此ノ名アリ此ノ種ノ内人間ノ食用トナス
ヘキモノアリ昆布ヲ以テ第一トス紫菜鹿尾菜
之二次ク皆鹹水中ニ産ス淡水ニ産スルハ食フ
ヘキモノナシ肥料トナスヘシ皆林氏ノ第廿四
網殖機隱微ナルモノニ屬ス

K110.481
10

博物小學 植物篇卷之下

博物植物篇卷之下 大尾
小學

明治十五年五月十日版權免許
同年六月出版 定價金四十錢

著者

大阪府平民

天野 皎

府下東區船越町二丁目五番地

同

出版人

柳原喜兵衛

同區北久太郎町四丁目十五番地